

第7章 P C B含有ポリサルファイド系シーリング材撤去工事			部		項 目		特 記 事 項		部		項 目		特 記 事 項		部		項 目		特 記 事 項																																							
* S 4 7 年以前に施工されたシーリング材																																																										
第1部 総則	1 目的	・「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」（平成13年7月15日施工）に基づき、ポリ塩化ビフェニル含有ポリサルファイド系シーリング材（以下、「P C B含有シーリング材」と称す）を適正に処置することを目的とする。	第6部 焼却炉	6 健康管理	請負業者は、作業員に対し、労働安全衛生法に基づく一般健康診断を確実に実施すると共にダイオキシン類へのばく露による健康不安を訴える作業員に対して、産業医等の意見を踏まえ、必要を認める場合には、就業上の措置等を適切に行うこと。 また、事故、保護員等により当該作業員がダイオキシン類に著しく汚染され、又はこれを多量に吸入したおそれの場合は、速やかに当該作業員に医師による診断若しくは処置を受けさせること。なお、この場合には、必要に応じ当該作業員の血中ダイオキシン類濃度測定を行い、その結果を記録し、30年間保存しておくこと。		第6部 焼却炉	11 保護員選定に係る管理区域の決定	解体作業における焼却施設の測定結果等による保護員の選定 図－3 <div>解体対象焼却施設の空気中のダイオキシン類濃度の測定結果</div> <table><tr><td></td><td>第1評価値< 2.5pg-TEQ/m³</td><td>第2評価値≦ 2.5pg-TEQ/m³</td><td>第1評価値> 2.5pg-TEQ/m³</td></tr><tr><td>B測定値< 2.5pg-TEQ/m³</td><td>第1管理区域</td><td>第2管理区域</td><td>第3管理区域</td></tr><tr><td>2.5pg-TEQ/m³≦ B測定値 ≦3.75pg-TEQ/m³</td><td>第2管理区域</td><td>第2管理区域</td><td>第3管理区域</td></tr><tr><td>B測定値> 3.75pg-TEQ/m³</td><td>第3管理区域</td><td>第3管理区域</td><td>第3管理区域</td></tr></table> <div>・設備に付着する汚染物のサンプリング調査 ・3000pg-TEQ/g≦サンプリング調査（d） ・追加サンプリング</div> <div>汚染除去・解体作業中、デジタル粉じん計等により連続した粉じん濃度測定等を行わない計画の場合</div> <div>汚染物のサンプリング調査結果 d（pg-TEQ/g）に基づき、保護員選定に係る管理区域を決定する。</div> <table><tr><td></td><td>上表の第1管理区域</td><td>上表の第2管理区域</td><td>上表の第3管理区域</td></tr><tr><td>d<3000pg-TEQ/g</td><td>保護員選定に係る第1管理区域</td><td>保護員選定に係る第2管理区域</td><td>保護員選定に係る第3管理区域</td></tr><tr><td>3000≦d<4500pg-TEQ/g</td><td>保護員選定に係る第2管理区域</td><td>保護員選定に係る第3管理区域</td><td>保護員選定に係る第3管理区域</td></tr><tr><td>4500pg-TEQ/g≦d</td><td>保護員選定に係る第3管理区域</td><td>保護員選定に係る第3管理区域</td><td>保護員選定に係る第3管理区域</td></tr></table> <div>・ガス状ダイオキシン類の発生するおそれのある作業 ・解体対象設備のダイオキシン類汚染状況が不明</div> <div>・保護員選定に係る第1管理区域 ・保護員選定に係る第2管理区域 ・保護員選定に係る第3管理区域 ・保護員選定に係る第3管理区域 ・保護員選定に係る汚染状況が判明しない ・高濃度汚染物（3000pg-TEQ/g<d）を常時直接取り扱う</div> <div>・ガス状ダイオキシン類の発生するおそれのある作業 ・解体対象設備のダイオキシン類汚染状況が不明</div> <table><tr><td></td><td>レベル 1</td></tr><tr><td></td><td>レベル 2</td></tr><tr><td></td><td>レベル 2</td></tr><tr><td></td><td>レベル 3</td></tr><tr><td></td><td>レベル 3</td></tr><tr><td></td><td>レベル 4</td></tr></table>			第1評価値< 2.5pg-TEQ/m ³	第2評価値≦ 2.5pg-TEQ/m ³	第1評価値> 2.5pg-TEQ/m ³	B測定値< 2.5pg-TEQ/m ³	第1管理区域	第2管理区域	第3管理区域	2.5pg-TEQ/m ³ ≦ B測定値 ≦3.75pg-TEQ/m ³	第2管理区域	第2管理区域	第3管理区域	B測定値> 3.75pg-TEQ/m ³	第3管理区域	第3管理区域	第3管理区域		上表の第1管理区域	上表の第2管理区域	上表の第3管理区域	d<3000pg-TEQ/g	保護員選定に係る第1管理区域	保護員選定に係る第2管理区域	保護員選定に係る第3管理区域	3000≦d<4500pg-TEQ/g	保護員選定に係る第2管理区域	保護員選定に係る第3管理区域	保護員選定に係る第3管理区域	4500pg-TEQ/g≦d	保護員選定に係る第3管理区域	保護員選定に係る第3管理区域	保護員選定に係る第3管理区域		レベル 1		レベル 2		レベル 2		レベル 3		レベル 3		レベル 4	第6部 焼却炉	16 作業場所の養生等	イ、屋外設置設備の解体前養生 ①汚染除去作業、解体作業を行う前に設備全体を外部環境と隔離するために、仮設備造物及びビニールシートにより養生する。なおこれが著しく困難な場合は開口部を養生する等の方法により、設備内部から外部へ解体に伴う粉じん、ガス等が流出しないようにすること。 ②煙突等の解体 煙突等設備全体を養生することが困難であるものについては設備内の流れが後述の空気清浄機方向となるように吸引ブロアーの流量を確保すること。 ① 1次空気清浄（他の管理区分の作業環境中に処理後の空気を還元させるもの） 第3管理区域の作業場所には内部を負圧するとともに、区画された場所の汚染空気を適切に処理し他の管理区分へ排出するために、プレフィルター、ヘパフィルター並びにチャコールフィルター類及び適切な処理能力を有するブロアーを設置すること。 ② 2次空気清浄（周辺環境中への放出する場合） ア）解体作業を行う作業場所内部を負圧すると共に、区画された場所の汚染空気を適切に処理し、一般環境中へ放出するために、プレフィルター、ヘパフィルター並びにチャコールフィルター類及び適切な処理能力を有するブロアーを設置すること。 イ）処理後の排気は関係法令及び地方自治体等が定める環境基準を満たすものであること。 排気処理、排水処理、解体廃棄物の処理、その他の廃棄物の処理は、関係法令に基づき周辺環境に十分注意をはらい、適切な処理を施すこと。 すべての解体作業終了後、当該施設と施設外の境界部分において環境調査を行うこと。	
	第1評価値< 2.5pg-TEQ/m ³	第2評価値≦ 2.5pg-TEQ/m ³	第1評価値> 2.5pg-TEQ/m ³																																																							
B測定値< 2.5pg-TEQ/m ³	第1管理区域	第2管理区域	第3管理区域																																																							
2.5pg-TEQ/m ³ ≦ B測定値 ≦3.75pg-TEQ/m ³	第2管理区域	第2管理区域	第3管理区域																																																							
B測定値> 3.75pg-TEQ/m ³	第3管理区域	第3管理区域	第3管理区域																																																							
	上表の第1管理区域	上表の第2管理区域	上表の第3管理区域																																																							
d<3000pg-TEQ/g	保護員選定に係る第1管理区域	保護員選定に係る第2管理区域	保護員選定に係る第3管理区域																																																							
3000≦d<4500pg-TEQ/g	保護員選定に係る第2管理区域	保護員選定に係る第3管理区域	保護員選定に係る第3管理区域																																																							
4500pg-TEQ/g≦d	保護員選定に係る第3管理区域	保護員選定に係る第3管理区域	保護員選定に係る第3管理区域																																																							
	レベル 1																																																									
	レベル 2																																																									
	レベル 2																																																									
	レベル 3																																																									
	レベル 3																																																									
	レベル 4																																																									
第2部 工事関連材料・器材等	2 撤去物散逸防止材など	・地面被覆用養生シート ・飛散防止用背面養生シート ・開口部、換気口等遮断用養生シート	第6部 焼却炉	7 休憩場所の措置	休憩場所の入口には、エアシャワー、温水シャワー等の汚染除去設備、作業等に付着した灰を除去するための電気掃除機等を備え、水を流し、又は十分濯らせたマントを置く等作業員の足部に付着した焼却灰等を除去するための設備を設けること。 電気掃除機等により床の清掃を毎日1回以上行うこと。 休憩場所以外のおける措置 作業衣等の保管等 喫煙等の禁止 8 空気中のダイオキシン類の濃度の測定 実施時期及び回数 測定場所 測定方法 測定結果の保存 9 解体対象設備の汚染物のサンプリング調査 10 解体作業管理区域の決定 11 保護員選定に係る管理区域の決定		第6部 焼却炉	12 保護員の選択	廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策要綱に基づく、レベル1～4の基準による。																																																	
第3部 施工管理	3 作業員用保護具	・保護マスク ・保護手袋 ・その他一般作業に準ずる	第3部 施工管理	9 解体対象設備の汚染物のサンプリング調査	それぞれ以下の期間中に1回以上行う。 （イ）設備調査期間（解体工事開始前） （ロ）解体作業期間（解体作業の工期が中断等により分離される場合はそれぞれの工期ごとに1回以上） なお、解体工事開始前の空気中のダイオキシン類濃度測定については、焼却施設を管理する事業者が、解体作業開始前6ヶ月以内に測定を行っている場合については、この結果を用いて差し支えない。		第3部 施工管理	13 付着物除去作業の実施	付着物除去作業を行うにあたっては以下の点に留意する。 ①付着物除去を行う場合は当該箇所を仮設備造物（壁等）又はビニールシートにより他の場所と隔離する。 ②高濃度の場合には、可能な限り遠隔操作により作業をおこなう。 ③煙道等狭小な場所において、高圧洗浄等により付着物除去を行う等適切な措置を講ずる ④ダイオキシン類に汚染されているおそれのある水管等のパイプ部分については清浄剤の使用等により付着物除去を行う。 ⑤ポンプ、ブロア等構造が複雑な機器類は、機械油等を回収した上で付着物除去を行う。 ⑥移動施設の一部設備の解体工において耐火物、電気設備等、冠水により当該機器に障害が生ずるおそれのある設備が設置されている場合には当該設備を養生等により隔離した上で作業を行う。 ⑦袋詰め等、汚染物を取り扱う作業を行う場合にはスコップ、吸引機等の用具等を用いること。																																																	
	4 撤去物回収袋	・撤去物回収用プラスチックフィルム製袋（ポリ袋など）			第3部 施工管理	9 解体対象設備の汚染物のサンプリング調査			それぞれ以下の期間中に1回以上行う。 （イ）設備調査期間（解体工事開始前） （ロ）解体作業期間（解体作業の工期が中断等により分離される場合はそれぞれの工期ごとに1回以上） なお、解体工事開始前の空気中のダイオキシン類濃度測定については、焼却施設を管理する事業者が、解体作業開始前6ヶ月以内に測定を行っている場合については、この結果を用いて差し支えない。		第3部 施工管理	13 付着物除去作業の実施	付着物除去作業を行うにあたっては以下の点に留意する。 ①付着物除去を行う場合は当該箇所を仮設備造物（壁等）又はビニールシートにより他の場所と隔離する。 ②高濃度の場合には、可能な限り遠隔操作により作業をおこなう。 ③煙道等狭小な場所において、高圧洗浄等により付着物除去を行う等適切な措置を講ずる ④ダイオキシン類に汚染されているおそれのある水管等のパイプ部分については清浄剤の使用等により付着物除去を行う。 ⑤ポンプ、ブロア等構造が複雑な機器類は、機械油等を回収した上で付着物除去を行う。 ⑥移動施設の一部設備の解体工において耐火物、電気設備等、冠水により当該機器に障害が生ずるおそれのある設備が設置されている場合には当該設備を養生等により隔離した上で作業を行う。 ⑦袋詰め等、汚染物を取り扱う作業を行う場合にはスコップ、吸引機等の用具等を用いること。																																													
5 シーリング材保管容器の取扱い	・撤去したP C B含有シーリング材は、建物所有者が準備した保管容器に収納し、建物所有者に移管する。	第3部 施工管理	9 解体対象設備の汚染物のサンプリング調査	それぞれ以下の期間中に1回以上行う。 （イ）設備調査期間（解体工事開始前） （ロ）解体作業期間（解体作業の工期が中断等により分離される場合はそれぞれの工期ごとに1回以上） なお、解体工事開始前の空気中のダイオキシン類濃度測定については、焼却施設を管理する事業者が、解体作業開始前6ヶ月以内に測定を行っている場合については、この結果を用いて差し支えない。			第3部 施工管理	13 付着物除去作業の実施	付着物除去作業を行うにあたっては以下の点に留意する。 ①付着物除去を行う場合は当該箇所を仮設備造物（壁等）又はビニールシートにより他の場所と隔離する。 ②高濃度の場合には、可能な限り遠隔操作により作業をおこなう。 ③煙道等狭小な場所において、高圧洗浄等により付着物除去を行う等適切な措置を講ずる ④ダイオキシン類に汚染されているおそれのある水管等のパイプ部分については清浄剤の使用等により付着物除去を行う。 ⑤ポンプ、ブロア等構造が複雑な機器類は、機械油等を回収した上で付着物除去を行う。 ⑥移動施設の一部設備の解体工において耐火物、電気設備等、冠水により当該機器に障害が生ずるおそれのある設備が設置されている場合には当該設備を養生等により隔離した上で作業を行う。 ⑦袋詰め等、汚染物を取り扱う作業を行う場合にはスコップ、吸引機等の用具等を用いること。																																																	
施工フロー	<div>《作業の概要》 * 天候・降雨の有無等確認 * 建物所有者準備の撤去物保管容器の確認 * 標識の設置 * 地面被覆用養生シート・飛散防止用背面養生シートの設置 * 改修（補修）工事の場合は開口部・換気口等を遮断 * 下地が露出する程度まで撤去 * 撤去物回収袋への収納 * 足場及び養生シート上への散逸物回収 * 撤去シーリング材を保管容器へ収納 * 監督職員が実施 ・撤去状況：下地が露出しているか ・回収状況：散逸物がなく、所定容器に適切に収納されているか * 足場及び養生シートは清掃後取り外し * 保管容器数の建物所有者への報告</div>			第3部 施工管理	9 解体対象設備の汚染物のサンプリング調査	それぞれ以下の期間中に1回以上行う。 （イ）設備調査期間（解体工事開始前） （ロ）解体作業期間（解体作業の工期が中断等により分離される場合はそれぞれの工期ごとに1回以上） なお、解体工事開始前の空気中のダイオキシン類濃度測定については、焼却施設を管理する事業者が、解体作業開始前6ヶ月以内に測定を行っている場合については、この結果を用いて差し支えない。			第3部 施工管理	13 付着物除去作業の実施	付着物除去作業を行うにあたっては以下の点に留意する。 ①付着物除去を行う場合は当該箇所を仮設備造物（壁等）又はビニールシートにより他の場所と隔離する。 ②高濃度の場合には、可能な限り遠隔操作により作業をおこなう。 ③煙道等狭小な場所において、高圧洗浄等により付着物除去を行う等適切な措置を講ずる ④ダイオキシン類に汚染されているおそれのある水管等のパイプ部分については清浄剤の使用等により付着物除去を行う。 ⑤ポンプ、ブロア等構造が複雑な機器類は、機械油等を回収した上で付着物除去を行う。 ⑥移動施設の一部設備の解体工において耐火物、電気設備等、冠水により当該機器に障害が生ずるおそれのある設備が設置されている場合には当該設備を養生等により隔離した上で作業を行う。 ⑦袋詰め等、汚染物を取り扱う作業を行う場合にはスコップ、吸引機等の用具等を用いること。																																															
第4部 安全管理	1 作業員の安全衛生	・作業は、一般工事と同様に労働安全衛生法等関連法規を遵守して行うとともに、当作業はP C B含有シーリング材を扱うため特に次の事項を厳守する。 ・保護手袋の着用 ・保護マスクの着用 ・作業終了時及び休憩時における手洗いの実施	第4部 安全管理			10 解体作業管理区域の決定	解体作業を行う事業者は、下記の記録を用いて解体作業管理区域を決定する。 （1）作業前に測定した空気中のダイオキシン類濃度測定結果、 （2）解体対象設備の汚染物のサンプリング調査結果 （3）付着物除去記録等				第4部 安全管理	14 解体方法の選択	・解体作業第1管理区域内での解体作業 ・解体作業第2管理区域内での解体作業 ・解体作業第3管理区域内での解体作業 ・解体作業第2管理区域及び解体作業第3管理区域で漸進によらない解体方法が著しく困難な場合の特例																																													
2 周辺環境への配慮	・発生塵埃が周辺環境に影響を与える可能性があるため、カッターナイフなどによる撤去を原則とするが、ダイヤモンドカッターなどで研削除去を行う場合は、塵埃発生などの対策を確実に行う。 ・改修（補修）工事の場合、開口部・換気口などを確実に遮断する。	第4部 安全管理		10 解体作業管理区域の決定	解体作業において使用する保護員を選定するため、図-3により保護員に係る管理区域（レベル1からレベル4まで）を決定する。 但し、高所作業又は臨時の作業においては特例によること。		第4部 安全管理	14 解体方法の選択	・解体作業第1管理区域内での解体作業 ・解体作業第2管理区域内での解体作業 ・解体作業第3管理区域内での解体作業 ・解体作業第2管理区域及び解体作業第3管理区域で漸進によらない解体方法が著しく困難な場合の特例																																																	
第8章 焼却炉 撤去工事																																																										
*注意）4以降の項目については、解体する焼却炉の能力、及び火床面積を確認の上、監督員と協議を行い、法的な手続きに準じて解体、撤去作業を行うこと																																																										
第6部 焼却炉	1 適用	焼却炉で、火床面積（焼却炉施設に二つ以上の焼却炉が設置されている場合にあっては、それらの合計）が、0.5㎡以上、又は焼却能力（焼却炉施設に二つ以上の焼却炉が設置されている場合にあっては、それらの合計）が、1時間当たり50kg以上のものについては、ダイオキシン類対策特別措置法の規制を受ける。	第6部 焼却炉	16 作業場所の養生等	イ、屋外設置設備の解体前養生 ①汚染除去作業、解体作業を行う前に設備全体を外部環境と隔離するために、仮設備造物及びビニールシートにより養生する。なおこれが著しく困難な場合は開口部を養生する等の方法により、設備内部から外部へ解体に伴う粉じん、ガス等が流出しないようにすること。 ②煙突等の解体 煙突等設備全体を養生することが困難であるものについては設備内の流れが後述の空気清浄機方向となるように吸引ブロアーの流量を確保すること。 ① 1次空気清浄（他の管理区分の作業環境中に処理後の空気を還元させるもの） 第3管理区域の作業場所には内部を負圧するとともに、区画された場所の汚染空気を適切に処理し他の管理区分へ排出するために、プレフィルター、ヘパフィルター並びにチャコールフィルター類及び適切な処理能力を有するブロアーを設置すること。 ② 2次空気清浄（周辺環境中への放出する場合） ア）解体作業を行う作業場所内部を負圧すると共に、区画された場所の汚染空気を適切に処理し、一般環境中へ放出するために、プレフィルター、ヘパフィルター並びにチャコールフィルター類及び適切な処理能力を有するブロアーを設置すること。 イ）処理後の排気は関係法令及び地方自治体等が定める環境基準を満たすものであること。 排気処理、排水処理、解体廃棄物の処理、その他の廃棄物の処理は、関係法令に基づき周辺環境に十分注意をはらい、適切な処理を施すこと。 すべての解体作業終了後、当該施設と施設外の境界部分において環境調査を行うこと。		第6部 焼却炉	17 換気装置・空気清浄機	① 1次空気清浄（他の管理区分の作業環境中に処理後の空気を還元させるもの） 第3管理区域の作業場所には内部を負圧するとともに、区画された場所の汚染空気を適切に処理し他の管理区分へ排出するために、プレフィルター、ヘパフィルター並びにチャコールフィルター類及び適切な処理能力を有するブロアーを設置すること。 ② 2次空気清浄（周辺環境中への放出する場合） ア）解体作業を行う作業場所内部を負圧すると共に、区画された場所の汚染空気を適切に処理し、一般環境中へ放出するために、プレフィルター、ヘパフィルター並びにチャコールフィルター類及び適切な処理能力を有するブロアーを設置すること。 イ）処理後の排気は関係法令及び地方自治体等が定める環境基準を満たすものであること。 排気処理、排水処理、解体廃棄物の処理、その他の廃棄物の処理は、関係法令に基づき周辺環境に十分注意をはらい、適切な処理を施すこと。 すべての解体作業終了後、当該施設と施設外の境界部分において環境調査を行うこと。																																																	
第6部 焼却炉	2 施工計画書の提出	焼却炉解体に伴うダイオキシン類に汚染された空気及び粉塵飛散防止対策等、盛り込んだ施工計画書を作成し、監督員に提出して承諾を得た後に施工する。	第6部 焼却炉	18 周辺環境への対応	排気処理、排水処理、解体廃棄物の処理、その他の廃棄物の処理は、関係法令に基づき周辺環境に十分注意をはらい、適切な処理を施すこと。		第6部 焼却炉	19 周辺環境等の調査	すべての解体作業終了後、当該施設と施設外の境界部分において環境調査を行うこと。																																																	
第6部 焼却炉	3 解体工事の計画の届出	工事開始の日の14日前までに計画の届出様式に必要な事項を記載し、所轄の労働基準監督所長あてに提出する。 但し焼却能力が毎時200kg以上、又は火床面積が2㎡以上のものに限る。	第6部 焼却炉	19 周辺環境等の調査	すべての解体作業終了後、当該施設と施設外の境界部分において環境調査を行うこと。		第6部 焼却炉																																																			
第6部 焼却炉	4 特定化学物質等作業主任者	請負者は解体作業にあたり特定化学物質等作業主任者を選任し工事経歴書添付した書面を監督員に提出する。作業主任者は作業を指揮するとともに、作業に従事する労働者の保護員の着用状況及びダイオキシン類を含む物の発散源の測定値の確認を行う。	第6部 焼却炉				第6部 焼却炉																																																			
第6部 焼却炉	作業者名簿等	作業主任者の資格証明書の写し及び作業者名簿を提出する。	第6部 焼却炉				第6部 焼却炉																																																			
第6部 焼却炉	5 特別教育の実施	請負業者は解体作業に従事する作業員に対して、労働安全衛生規則第592条の7及び安全衛生特別教育規定に定める特別教育を行うこと。	第6部 焼却炉				第6部 焼却炉																																																			

工 事 件 名	図 面 名 称	縮 尺	設計年月日	訂正年月日	照 査 ・ 検 図	総 括 設 計 者	担 当 設 計 者	構 造 設 計 者	図 面 番 号
皆野町文化会館空調設備更新工事	解体工事特記仕様書3		H29.03						A-010